

材木屋とエコ 環境 省エネ(第78回)

寅さんと矢切の渡し

(株)コバリン 奥澤 康文

2月11日(日)葛飾柴又へ。寒さが和らぎ微風で好天の為夫婦で外出。前日、家内の妙案?で急に思い立ち、勿論、初めてで期待ワクワク。何時でも行けると思いながら30余年、結局行かず仕舞い。大宮の自宅から電車を乗り継ぎ、1時間少々で柴又駅に到着。駅前に、「寅さん」と「さくらさん」の銅像を発見。二人の心温まる出迎えに感動し、写真を撮り始めた途端、びっくり。何と、そこに、家内の姉夫婦(都下北多摩在住)とばったり。余りにも偶然で互いに、「わーっ」と歓声をあげた。

少し立ち話後に別れたが、約3時間後、気の向く儘に群衆中を徘徊中、帝釈天参道の交差点で数m先の向いで又遭遇、2度目のびっくり。出逢いや縁の不思議さを痛感。2日後、柴又が国の重要文化的景観に登録され喜ばしい。小波の様に押し寄せ漂う観光客の平均年齢は70歳位か。レトロな町並みに昭和の懐かしさ、情緒、温もりが残る為、大勢のシニアの心の拠り所になっている。



有名な「フーテンの寅」(渥美清)。山田監督の自筆で刻まれた「映画の碑」がある。葛飾柴又は、豊かな自然と温かい人情が通い合う評判の街。



旅に出る寅さんを「見送るさくら」(倍賞千恵子)。演技上手、元々は美声の歌手として活躍。彼女の「日本の抒情歌」には深い感動を覚える。



昭和の懐かしい雰囲気漂う。世田谷辺りの元エリートより葛飾、足立辺りのシニアが長生きするという。



参道周辺がロケ地として有名。「男はつらいよ」シリーズのポスター等が多く、映画の世界へ誘われる。



手打ちそば処の「やぶ忠」2Fで昼食。店内は昔の雰囲気。昭和風の街並みを散策すると気持ちが安らぐ。



最近では珍しい、手打ちのかけそば。素朴でさっぱり系の美味。ソバは私の好物で至福の一時。



これが有名な、柴又帝釈天「題経寺」。寅さんが産湯を使ったという。老若男女が行き交い賑わっている。



境内を大勢の観光客が思い思いに参拝・散策。古い寺院と松、楠、欅類は、眺めていても飽きない。



境内の楠の大木。近隣の江戸川の湿度せいか苔が生え、雑草も繁茂。寺院の「語り部」の風格を感じる。



境内の隅、「東日本大震災犠牲者供養塔」が有。3月11日で7年経過するが、依然深い傷跡が残る。

【矢切の渡し】 帝釈天から徒歩約10分で江戸川に出る。対岸は千葉県松戸市、市川市の丘陵地帯が眺望でき、これ程傍とは露知らず。昭和58年2月、歌手の細川たかしの歌で一躍名所になる。手漕ぎの舟が往来していたが、時間の都合で取りやめた。又、伊藤左千夫の名作『野菊の墓』(*)の一場面、二度と逢うことのない恋人達が別れた哀しみの舞台としても知られている。(※:中学生当時読んだ記憶が半世紀ぶりに蘇った。) 静かな流れの川岸をのんびり散策すると、都会の雑踏から解放され気分がすっきり、少し幻滅した部分もあったが出かけた甲斐があったと思う。



穏やかな江戸川の流れ。「矢切の渡し」は私の愛唱歌、小声でハミング。名曲を生んだ芸術家の創作力に感謝。



字が擦れているが、「矢切の渡し」とある。寂れた場所だが、もう少しちゃんとした物が欲しい。

【葛飾区山本亭】 「矢切の渡し」から、「寅さん記念館」へ向かう道なりに、伝統的な和風建築の雰囲気誘われ立ち寄る。建物は地元ゆかりの山本工場(カメラ部品製造)の創立者で、山本栄之助翁の自宅だった。関東大震災(1923年)後、当地に移り住み、以降4代に亘って使用されていたものを、昭和63年に葛飾区が取得し、平成3年から一般に公開された。

建物は、1階400㎡、2階50㎡の木造瓦葺き2階建てで、地下室、土蔵、長屋門等も備え、大正15年から昭和5年の間に数回の増改築を重ね、現在の姿になった。伝統的な書院造と洋風建築を複合した和洋折衷の建物と、純和風の庭園とが見事な調和を保っており、その文化的価値は、国内はもとより海外においても高く評価されている。



ここは主庭。他に、居宅、長屋門、鳳凰の間、土蔵等がある。この種の庭園では、日本のベスト3に入るという。狭いマンション住まいの私には夢の世界。



戦時中の防空壕跡。当時はこの家にもあったが、現存するのは少ない。私の生家の庭先にもあったことを、祖母、父から聞いたのを思い出した。

【寅さん記念館】 山田洋次監督とスタッフは、ドラマの設定にぴったりの場所を求めて東京近郊の候補地をロケハンした。しかし、イメージ通りの場所が中々見つからず半ば諦めかけた或る日、やっと辿り着いたのが葛飾柴又だったという。成程、誰しも納得する場所と思う。国民的な人気の「男はつらいよ」シリーズは、1966年から1995年までの29年間で、計48作が製作され、今でもBS等で放映される国民的超ロングセラー。最近では若い頃には感じなかった特別な感情が湧いてくる。



色々な展示物で興味津々。山田監督は日本の豊かな自然とそこに住む人々の温かい心を丹念に描写・表現した。



館内の撮影場所。「くるま屋本舗」の店先。監督は、永年探し求めてきたものを葛飾柴又で見つけた。



「愛染かつら」「君の名は」等は、昔、テレビで見たこと有り。「旅の夜風」は今では古風な歌だが風情がある。



昼寝中の寅さん。一体、何の夢かな？ 昔はどここの家にも縁側があり、急に懐かしさが込上る。



監督の「山田洋次ミュージアム」にも立ち寄る。昭和史に残る名作の映画作成裏の相当なご苦労を感じた。



再び帝釈天の境内を通り抜け、柴又駅へ。中には立派な彫刻があるが混雑の為パスし次回にする。

【第23回冬季五輪】(韓国平昌、2月9日～2月25日、17日間。参加国数：92、選手数：2,925、種目数：7競技102種類)

	国別順位	金	銀	銅	計
1	ノルウェー	14	14	11	39
2	ドイツ	14	10	7	31
3	カナダ	11	8	10	29
4	米国	9	8	6	23
5	オランダ	8	6	6	20
6	スウェーデン	7	6	1	14
7	韓国	5	8	4	17
8	スイス	5	6	4	15
9	フランス	5	4	6	15
10	オーストリア	5	3	6	14
11	日本	4	5	4	13
12	イタリア	3	2	5	10
13	OAR(ロシア)	2	6	9	17
14	チェコ	2	2	3	7
15	ベラルーシ	2	1	0	3
16	中国	1	6	2	9
17~30	その他14ヶ国	6	7	18	31
	合計	103	102	102	307

前評判では盛り上がり欠けると報道されていたが、連日深夜に及ぶ白熱戦で応援が沸騰し国民的な話題を呼び、私も久々に興奮しました。夏季五輪に比べ参加国は限定的で、国別メダル表では、上位6ヶ国で51%、又、16ヶ国で90%を獲得、欧州五輪という印象を受ける。メダルの夢を実現した選手や家族・関係者達の大変な苦勞話を聞いて感動を覚えた。又、閉会後の会場、施設等のメンテの問題は重い。世紀の祭典とは言え、裏で複雑な政治的な駆け引きもあるようだが・・・？ 東京夏季五輪もあと2年、秋に開催して欲しかったが無事に成功して欲しい。

2018年3月4日(日)記